

編集後記

(55巻 第12号 2009年12月)

今、新政府では「事業仕分け」が行われており、その様子がテレビで放映され国民の注目を集めている。この作業で3兆円の財源を確保するということであるが、大変な作業であることがよくわかった(前政権の定額給付金2兆円が、いかに大きな金額であったか。残念でならない。)。 「必殺仕分け人」のタスクは、政治的な判断は別にして、誰がみても無駄と思える事業を査定することのようである。確かに多くの事業がばさばさと切り捨てられているが、不必要な事業がこんなにたくさんあったのかと驚いた国民も多いと思う。 今後はどんな日本国を作るのかという政治判断を明確に示して、正しい予算決定をしてほしい。

この編集後記は東京に向かう新幹線のなかで書いている。今は紅葉シーズンの真っ盛りで、朝日にあたって黄金色に染まる伊吹山が美しい。やはり日本の国は美しいと思う。 少子高齢化という大問題を抱えた日本には、子育てや教育に投資して高い民度をさらに発展・維持することが大切だと思う。そして、医療・福祉を充実させて本当の意味での美しい日本を目指してほしい。

(小川 修)